

第3章 人間社会学部のアクティブ・ラーニングの変遷

3-1 新学部構想と旧カリキュラム

3-1-1 実践的なALへの注目

2010年当時、私は学部を超えるキャリア教育などを担当する教育革新センターで、正規科目としての「インターンシップ」などで、教室の外で社会人から学ぶ学生の成長に驚いた。私の専門科目（講義形式）では、残念ながら実感できなかった学生の変化だった。

こうした高い学修効果は、教室の外で、社会人との交流を通じて学ぶことができるインターンシップ（就業体験）の効果だけではない。当時、春学期を通じた事前学修を経て、夏休みにインターンシップに参加し、まとめと振り返りのための事後学習としての報告書の作成・提出、その冊子の制作までを「一連の学び」としていた。そのため、インターンシップ中の学び・成長だけでなく、〈事前学修→インターンシップ→インターンシップ期間中の中間面談・フォロー・サポート→事後学習、報告集の制作〉という当時の学びのプロセス全体の有効性¹でもあった。

2012年の『千葉商科大学CUCインターンシップ研修報告集』に、センター長として、私が書いたあいさつ文には、インターンシップの目的を「①企業や仕事の現場をリアルに学ぶこと、②働く意義、意味を再確認すること、③自分を見つめ、将来を真剣に考えること、④大学の学びへのフィードバック効果を高めること」²と記しているが、③と④のように、インターンシップを単なる就業体験にするのではなく、大学の学びと就職・仕事・キャリアの強い関係を学生に実感してほしいと考えていた。大学で学び、就活の時期が来たら就活し、卒業したら働く。時系列としては、その通りだが、将来の希望に合った大学、学部

¹ 永田・林（2016）は、「アクティブラーニングは学習者の能動性に着目した概念であるが、単に様々な活動を能動的に行っていればよいのではなく、経験学習のサイクルが回っている必要がある。そのためには、経験を抽象化する反省的思考のプロセスと、抽象概念をもう一度経験にもどすためのデザインの思考のプロセスが授業の中に組み込まれている必要がある」（p.25）ことを指摘している。つまり、インターンシップなどの「様々な活動」を行うだけではなく、〈事前学修→実践的な活動・AL→事後学修〉というプロセスが重要だ。

² 2012年度の『千葉商科大学CUCインターンシップ研修報告集』（非売品）（p.4）。実際に、学生からは、インターンシップ後、報告書や会話の中から、「コミュニケーション能力や課題解決力が重要だと実感した」、「大学での学びが就職後の仕事でどのように生きるか実感した」、「専門的な学びがまだ十分ではないと実感した」など、学生自身が大学での学びと社会・企業での仕事のつながりを実感していた。

を選択し、入学したとすれば、大学での日ごろの学びが将来の自分や仕事につながっていることを意識して、学んだり、インターンシップに参加したり、そのうえで就活をしてほしいと考えていた。大学選びや入学の時点では、具体的な将来の希望を持っていない学生がいることも事実であるが、大学の学びには、社会や仕事を知り、将来の自分を考えるきっかけも、多いはずだ。そういった意味では、点として、イベントとして、インターンシップを体験するだけでなく、大学4年間の学びと将来の自分を結ぶ線上にインターンシップを位置付けてほしいという思いが強かった。こうした4年間の学びを意識したカリキュラムは、新学部である人間社会学部のカリキュラム構築の際にも、基本的なポイントとなった。

また、当時、マンパワーとして学生を活用するインターンシップが皆無だったわけではなく、そういった課題を回避するために、受け入れ先の企業には、単なる就業体験ではなく、学生が課題に気づき、解決していく重要性を感じるインターンシップにしてほしいと伝えていた。そして、そういったプログラムになっているか、また、学生のインターンシップや企業への評価や要望、受け入れ企業の大学や学生への要望などを聞くために、インターンシップ中に企業を訪問し、学生と企業と面談を行っていた。当時、そうしたインターンシップを「課題解決型インターンシップ」として展開していたが、こうした私自身の認識や取り組みは、後に構想する新学部である人間社会学部のカリキュラムにも活かされた。

3-1-2 人間社会学部の新設³

キャリア教育を通じて、実践的なALが効果的であることを実感していたものの、新学部である人間社会学部のカリキュラムの構想の際には、いくつかの懸念や課題があった。第一に、実践的なALは、〈事前学修→学生の実践的なAL、教員のサポート→事後学修〉といった学びのプロセス全体への丁寧な指導・サポートが重要であるため、「すべての学生に実践的なALの学修機会を用意・提供し、指導・サポートできるか？」という教員側の課題・懸念があった。第二に、教室の外に出て、地域の方から学ぶような「実践的なALをすべての学生が希望するか？」という学生側の課題・懸念もあった。

新学部のカリキュラム構築の議論の中で、「学修効果が高いので、すべての学生が履修できるように、必修科目にする」ことを決めた。さらに、入学から卒業までに、複数回、実践的なALで学べるように、初年次教育としての1年生ゼミと選択必修科目としての実

³ 学部新設前後の人間社会学部のALについては、朝比奈剛（2016）で概要を紹介し、簡単な考察をしている。

産官学連携による社会の課題解決型アクティブ・ラーニングに関する研究

実践科目を実践的な AL で学べる科目とした。実践科目としては、2 年次以降に履修できる「プロジェクト演習」と「ボランティア実践」を、3 年次以降に履修できる「フィールドワーク」と「インターンシップ」を配置した。

第 4 章では、初年次教育としての実践的 AL に着目していきたい。

(朝比奈 剛)

参考文献

朝比奈剛 (2016) 「千葉商科大学人間社会学部のアクティブ・ラーニング」(IDE 大学協会『IDE 現代の高等教育』2016 年 7 月号)

永田敬・林一雅 (2016) 『アクティブラーニングのデザイン』東京大学出版会

3-2 現行カリキュラム

千葉商科大学では「CUC 3つの力」として、①高い倫理観、②幅広い教養、③専門的な知識・技能を定めている。①高い倫理観とは、「実社会における諸課題を発見し、その解決に主体的能動的に取り組む使命感とモラル」とし、②幅広い教養は「実社会の変化に即応し、多様な人々との協働に必要な豊かな人間性を形成するための普遍的な知識とコミュニケーション力」とし、③専門的な知識・技能は「実社会における諸課題を発見し、解決するための有用かつ高度な専門的能力」としている。

また、このCUC 3つの力を構成する能力要素を「CUC 6つの能力要素」として定め、各学部にてカリキュラムを編成している（図表3-1）。

図表3-1：「CUC 3つの力」と「CUC 6つの能力要素」

CUC 3つの力	CUC 6つの能力要素
高い倫理観	社会規範意識・誠実さ
	主体性・責任感
	チャレンジ精神・実践力
幅広い教養	相互理解・コミュニケーション力
	普遍的な知識・技能
専門的な知識・技能	専門的な知識・技能

資料：千葉商科大学 Web 「CUC 3つの力」と「CUC 6つの能力要素」

https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html

(2023年2月12日閲覧)

人間社会学部では、ディプロマ・ポリシーを「ビジネスの手法で、地域や社会の課題に取り組み、これからの社会を支える幅広い能力をもった職業人を養成する。」と定め、CUC 3つの力を次のように示している（図表3-2）。

図表3-2：人間社会学部の3つの力

3つの力	内容
高い倫理観	地域社会及び産業界と交流することで、社会の仕組み・課題・可能性、ビジネスの仕組み・課題・可能性を理解し、ビジネスによって社会の課題を解決しようとする高い使命感。
幅広い教養	専門知識を活かすための基礎的な知識・学力を持ち、常に学び、成長し続けるという向上心を育成するために「学ぶ力」「活動する力」「自分を高める力」を身につけたうえで、地域社会及び産業界の発展に貢献するための力。
専門的な知識・技能	社会の仕組み・課題・可能性を「社会学・社会福祉学」を通して学び、またビジネスの仕組み・課題・可能性を「経済学・商学・経営学」を通して学び、これらの専門知識を活かし地域社会及び産業界の発展に貢献できる力。

資料：筆者作成

また、人間社会学部における「6つの能力要素」は、「学ぶ力」として「社会の仕組み・課題・可能性を学ぶ力」、「ビジネスの仕組み・課題・可能性を学ぶ力」、「活動する力」として「学んだことを活動・経験に活かす力」、「交流し、協力する力・コミュニケーション能力」、「自分を高める力」として「自分のキャリアをデザインする力」、「自分のキャリアを高める力」をさすと定めている（図表3-3）。

図表3-3：人間社会学部における「6つの能力要素」

	能力要素
学ぶ力	・社会の仕組み・課題・可能性を学ぶ力。 ・ビジネスの仕組み・課題・可能性を学ぶ力。
活動する力	・学んだことを活動・経験に活かす力。 ・交流し、協力する力・コミュニケーション能力。
自分を高める力	・自分のキャリアをデザインする力。 ・自分のキャリアを高める力。

資料：筆者作成

2019年入学者からリニューアルした現行カリキュラムでは、学部新設時に重視してきたアクティブ・ラーニングを引き続き重視し、社会の現場での実践力の育成を行うことをカリキュラム・ポリシーにおいても定めている。カリキュラムは、①人間社会基礎科目群、②人間社会実践科目群、③人間社会専門科目群、④研究科目群の4つで構成されている（図表3-4）。

①人間社会基礎科目群は、「人間社会学で学ぶテーマである、人間・心理・社会・福祉・経済・会計・経営などを基礎から学ぶ」こととしており、人間社会学入門、社会学入門、社会福祉総論、現代社会論、経済学入門、会計学入門といった科目が配置されている。これらの科目は主に1年生が履修することになる。

②人間社会実践科目群は、「教室で学んだことを地域、企業、自治体などの現場で体験し、さらに学びを深めるアクティブ・ラーニングを実施する」こととしている。2年生以降を対象としたもので、フィールドワーク、まちおこし実践、ボランティア実践、ソーシャル・デザインといった科目が配置されている。

③人間社会専門科目群は、「学生の各自の将来に合わせて専門的な学びを深めたり、専門家として活躍するための資格取得に挑戦する」こととしてる。社会学・社会福祉学といった「ソーシャル科目」と、経済学・商学・経営学といった「ビジネス科目」で構成されている。

④研究科目群は、「各自の将来に合わせた専門的な学びを少人数のディスカッションや活動で深め、大学での学びの中心である」としている。1年生の研究基礎、2・3年生の研究Ⅱ・Ⅲ、4年生の卒業研究が配置されている。

現行のカリキュラムと旧カリキュラムでの大きな変更点は、2年生以降のゼミナール科目である。これまでは、2年生から4年生まで学部所属する全教員がゼミナールを担当し、学生は3年間、同一の教員のもとで指導を受けることになっていた。現行のカリキュラムでは、2年生の春学期は「ソーシャル」と「ビジネス」の2分野を選択し、秋学期は「まち」「観光」「ファイナンス」「サービス」「医療福祉」の5分野を選択することになった。原則として学生が希望する分野を選択することができるが、担当教員を学生が選択することはできない。そして3年生からは、学部所属する全教員が担当するゼミナールを選択して所属することになる。

その他、早い段階から将来のキャリアについて考え、社会人として必要な基礎力を養うために必要な知識と実践力を身につけることや、資格取得やアクティブ・ラーニングを目的とした授業内容を展開し、学生自らが主体的に学び、実践するカリキュラムとしている。

図表3-4：人間社会学部におけるカリキュラムマトリクス

授業科目名		専門的な知識・技能	幅広い教養		高い倫理観		
		専門的な知識・技能	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力	チャレンジ精神・実践力	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ
人間社会基礎科目群	人間社会入門	○	◎				○
	社会学入門	○					◎
	社会福祉総論	○					◎
	現代社会論	◎	○	○			
	経済学入門	○	◎			○	
	会計学入門	○	◎				
	フィールドワーク				◎	○	
	まちおこし実践			○	◎	○	
	ボランティア実践				◎	○	○
ソーシャル・デザイン				◎	○	○	

産官学連携による社会の課題解決型アクティブ・ラーニングに関する研究

授業科目名		専門的な知識・技能	幅広い教養		高い倫理観	
		専門的な知識・技能	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力	チャレンジ精神・実践力	主体性・責任感
人間社会専門科目群 (ソーシャル科目)	心理学	○		◎		○
	家族とジェンダーの社会学	◎	○	○		
	産業と仕事の社会学	◎	○	○		
	都市と地域の社会学	◎	○	○		
	福祉と医療の社会学	◎	○	○		
	情報とメディアの社会学	◎	○	○		
	社会調査の基礎	◎	○			
	社会調査の応用	◎			○	
	現代社会と観光	◎	○			
	グローバル社会論	◎	○	○		
	こどもと家族の心理学	◎	○	○		
	人間関係論	◎	○			
	社会保障論	◎		○		○
	児童福祉論	◎		○		○
	障害者福祉論	◎		○		○
	福祉行財政と福祉計画	◎	○			○
	高齢者に対する支援と介護保険制度	◎		○		○
	保健医療サービス	◎		○		○
	医療秘書概論	◎	○			
	相談援助の基盤と専門職	◎		○		○
	公的扶助論	◎		○		○
	日本の手話	◎		○		○
	福祉住環境論	◎		○		○
	まちづくり論	◎		○		
	ボランティア論	◎				○
	ライフデザイン論	◎			○	○
	健康管理・フィットネス	◎	○			
	福祉サービスの組織と経営	◎	○			○
	就労支援サービス	◎		○		○
	メンタルヘルスの心理学	◎	○			○
人間社会専門科目群 (ビジネス科目)	観光社会学	◎			○	
	経営学入門	○	◎			
	金融リテラシー	◎	○			○
	ソーシャル・ビジネス論	◎			○	○
	観光ビジネス論	◎			○	
	スポーツ・健康ビジネス論	◎			○	
	地方行政論	◎	○			
	地方創生論	◎	○			
	行政法	◎	○			
	パーソナルファイナンスⅠ	◎	○			○
	パーソナルファイナンスⅡ	◎	○			○
	ファイナンシャル・プランニング論	◎	○		○	
	ソーシャルファイナンス	◎	○			○
	財務会計論	◎	○			
	労働経済学	◎	○		○	
	地域と中小企業論	◎	○			
	起業の理論	◎	○		○	
	人的資源管理論	◎	○			
	組織とリーダーシップ	◎		○		○
	環境と経済	◎	○			

国府台経済研究 第32巻第2号

授業科目名		専門的な知識・技能	幅広い教養		高い倫理観		
		専門的な知識・技能	普遍的な知識・技能	相互理解・コミュニケーション力	チャレンジ精神・実践力	主体性・責任感	社会規範意識・誠実さ
人間社会専門科目群 (ビジネス科目)	国際協力論	◎		○			
	マーケティング入門	◎	○				
	消費者行動論	◎	○				○
	グローバル経済と日本	◎		○			
	日本の経済と社会	◎	○				
	アジアの経済と社会	◎	○	○			
	アメリカ・ヨーロッパの経済と社会	◎	○	○			
	初級簿記Ⅰ	◎	○				
	初級簿記Ⅱ	◎	○				
	中級簿記Ⅰ	◎					○
	中級簿記Ⅱ	◎					○
	ビジネスマネジメントⅠ	◎	○		○		
	ビジネスマネジメントⅡ	◎	○		○		
研究科目群	Inbound Tourism	◎	○	○			
	研究基礎A		○	◎	○	○	○
	研究基礎B		○	◎	○	○	○
	研究ⅡA	○	◎	○	○	○	
	研究ⅡB	○	◎	○	○	○	
	研究ⅢA	◎	○	○	○	○	
	研究ⅢB	◎	○	○	○	○	
	卒業研究A	◎	○	○	○	○	
卒業研究B	◎	○	○	○	○		
単位互換科目	特別講義(市川学A)	◎		○		○	
	特別講義(市川学B)	◎		○		○	
	特別講義(市川学C)	◎		○		○	
	特別講義(市川学D)	◎		○		○	

資料：人間社会学部カリキュラムマトリクスより筆者が一部加筆して作成

(勅使河原隆行)